

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	23220005	研究期間	平成23年度～平成27年度
研究課題名	漢字文化圏におけるわかりやすい法情報共有環境の構築	研究代表者 (所属・職)	松浦 好治 (名古屋大学・大学院 法学研究科・特任教授)

【平成26年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる	
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる	
○	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究では、(1)日韓台中の多国語法情報活用環境の実現、(2)高度な法令翻訳用辞書の整備、(3)分かりやすい法令文利用環境の提供、(4) e-Legislation に関する研究の推進などを目的としている。</p> <p>(1)と(2)については、法令対訳コーパスの構築、検索等が可能な公開環境の実現を行い、対訳辞書に加え、法概念の調整などの難しい問題にも挑戦している。(3)については、「平易化」の概念化の難しさのため、限定的なアプローチにとどまっており、当初計画よりやや遅れて進行している。</p> <p>「平易化」は、本研究で最も社会的意義の認められる課題であることから、コーパス等の整備が軌道に乗っていることを踏まえ、研究期間の後半で遅れを取り戻すべく、努力することが望まれる。</p>		